

ダイフク様

「モノを動かす」可能性への挑戦

マテハン・トップメーカーが取り組む業務改革

モノを動かす“マテリアルハンドリング”に携わってきたダイフクは、創業70周年を機に「Material Handling and Beyond」というスローガンを掲げ、日本を代表する物流システム・機器の総合メーカーとして、現在、世界18カ国でビジネスを展開しています。AFA（自動車生産ライン向け）、FA&DA（製造・流通業界向け）、eFA（半導体・液晶業界向け）の3つをコア事業として、各ソリューションの企画・提案、設計・製作・施工はもちろん、アフターサービス、リニューアルまで一貫してサポートしています。IFS Applicationsは、現在、AFA、FA&DAの二事業部でご利用いただいておりますが、今回は、AFA事業部でお話を伺いました。

ビジネス環境に見合ったシステムを

2000年を迎え、世界的なビジネス環境の大きな変化により、同社でも短納期化、高信頼性、コストダウン、生産のグローバル化への対応が強く求められるようになってきました。しかし、従来のホストによる生産管理システムではこういったニーズへの対応が難しいため、2003年春にPDMと併せて新生産管理システム「AFA-SKS」の検討が始まりました。

情報の共有とプロジェクト管理が必須要件

当時のシステムでは受注から出荷、工事までを一貫して管理する仕組みがなく、各システムが独立しており、部門間での情報共有も行われていませんでした。新システムでは顧客からの要求に柔軟に対応できるよう、サプライヤー・外注と設計部門との連携強化、長期にわたるプロジェクトにおける情報共有の促進、同社独特の生産形態である「コンカレント生産*」に不可欠な計画変更への迅速な対応、品質・コスト・納期の見える化が主要課題として挙げられ、さらに、グローバルでの最適な生産計画立案を支援する仕組み作りが求められました。

システムの選定にあたり、ベンダー7社からの提案を検討した結果、「複数の生産形態に対応できる」、「他システムとの連携のし易さ」といった評価に加え、他部門でもすでに採用されていた実績、グローバル性、PDM（NEC製Obbligato II）との連携も考慮され、NECが提案したIFS Applicationsが選ばれました。

*設計と生産までを一体化したダイフク独自の受注生産の仕組み

ERP導入は、“あるべき姿”を描いてから

ダイフクの将来を担う若手を中心とした体制で2004年1月にプロジェクトがスタート。業務

プロセスの変更を伴う新システムの導入であったため、現場との調整にかなりの労力が費やされました。

生産本部AFA工場 生産技術グループの持田係長は「ERPを導入するには、あるべき姿をまず描くことが大切。それを100%実現することは難しいですが、理想と現実とを見比べ、どこまでシステム化するか妥協点を探っていくべきです。そうすることで業務改善を進めることができるはず」と語っています。

2005年1月に本稼動を迎えた新システム。稼動当初は業務改革への抵抗が大きく、今までの業務のやり方から理想の業務形態の考え方が浸透するには半年近くかかりましたが、その後は利用者全員が前向きな姿勢で改革へ取り組むことができるようになりました。

効率的なプロジェクト管理やプロセスの標準化を実現

新システムの導入により、様々な成果が表れています。プロジェクトの管理においては、以前はMicrosoft® Excelベースで行われていたため情報が一元管理されていませんでしたが、今では関係者間で情報が共有されるようになり、業務がスムーズに遂行できるようになりました。さらに、PDMと生産管理システムが連携したことで再入力の手間が省け、ミスも減り、業務プロセスの統一化が図られました。調達品の手配においても、図面上のバーコードからの手配や、都度発注品のまとめ手配も可能になったことで、業務の省力化に貢献しています。

また、新システムでは出荷状況が正確に把握



DAIFUKU
Material Handling and Beyond
株式会社ダイフク

できるので、施工現場での受け入れ準備もスムーズに行え、原価面では、PDM連携で設計計画と実績の対比管理が一貫して実施可能となり、プロジェクト管理の精度アップに貢献しています。



生産技術グループ 係長 持田様

他システムとの連携でさらなる強化を

「2008年度は、パッケージ本来の機能をもっと活用して、当初描いた“あるべき姿”に近づけていきたいですね。また、プロジェクト当初から取り組んできた“見える化”についても、BIツールやMicrosoft Projectとの連携で、さらに強化していく予定です」と、持田係長は当面の計画を語っています。

長期的な目標のひとつにはグローバル化への対応も挙げられています。現在は、中国（常熟）に日本と同様の生産管理システムを導入していますが、今後はグローバル競争に勝ち残る「AFA生産方式の確立」を視野に入れ、追加開発したWebベースの輸出管理システムと併せて、他の海外拠点へも導入を検討していく予定です。

